

## 「釧路森林資源活用円卓会議」の検討方向について

### 1. 設置目的

釧路市は、阿寒国立公園や釧路湿原国立公園をはじめとした豊かな自然環境に恵まれた地域である。平成17年10月の3市町の合併により、森林面積は旧釧路市時代と比較して約1.9倍となり、管内の森林面積の約4分の1にあたる10万1千haを有している。

一般民有林<sup>1</sup>の人工林面積は、カラマツ・トドマツを中心に1万3千haであり、その多くが利用可能な40年生から50年生に集中しており（図-1）、豊富な人工林資源の有効活用が望まれる。一方、若齢の人工林資源が少ないことから、今ある利用可能な人工林資源を有効に活用し、計画的な伐採及び造林が実施されるよう、長期的な視点を持って取り組む必要がある。

また、国では、木材利用の促進に向けて法整備を行うとともに「森林・林業再生プラン」に基づく林政改革を進めており、市町村には、地域のコンセンサスを図りつつ、具体的な森林の取扱いのルールを制定するなど、地域の森林管理や木材の利用の促進に向けた積極的な役割を果たすことが、より一層求められている。

このため、釧路市有林をはじめとした釧路市内の森林資源の活用策を具体的に検討する「円卓会議」を設置し、地域内の“結びつき”を強め、地域内循環を進めるなど、釧路地域の強みをいかした循環型社会を形成するための取り組みを推進する（図-2）。

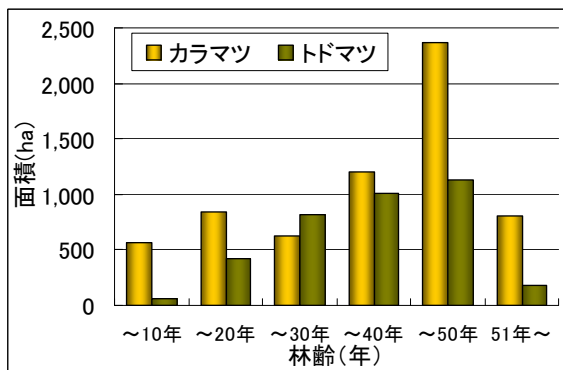


図-1 釧路市内一般民有林（人工林）面積

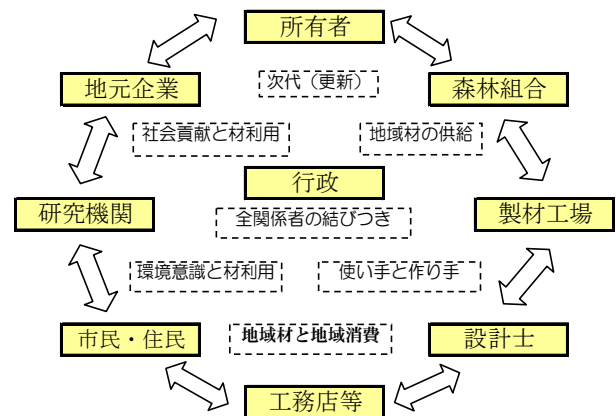


図-2 地域内の結びつきを強めた循環のイメージ

### 2. 参加委員

- ・ 森林所有者、森林組合、素材生産業者、森林土木建設事業者、製材工場、設計事務所、工務店、建設会社、農業協同組合、研究機関等

\*必要に応じて、委員追加、または、講師の招聘を行う。

<sup>1</sup> 国有林や道有林を除く個人・会社・市町村などが持つ林。

### 3. 対象とする検討議題

- ・ 釧路市有林の有効活用策
- ・ 木材供給側（川上）での地域特性に応じた森林施業とコスト削減策
- ・ 地域材利用の拡大策（高付加価値製品の加工・流通）

### 4. 部会の設置

具体的な課題解決の議論について、個別の議論を深めるため、部会を設けて、議論を進めていく。

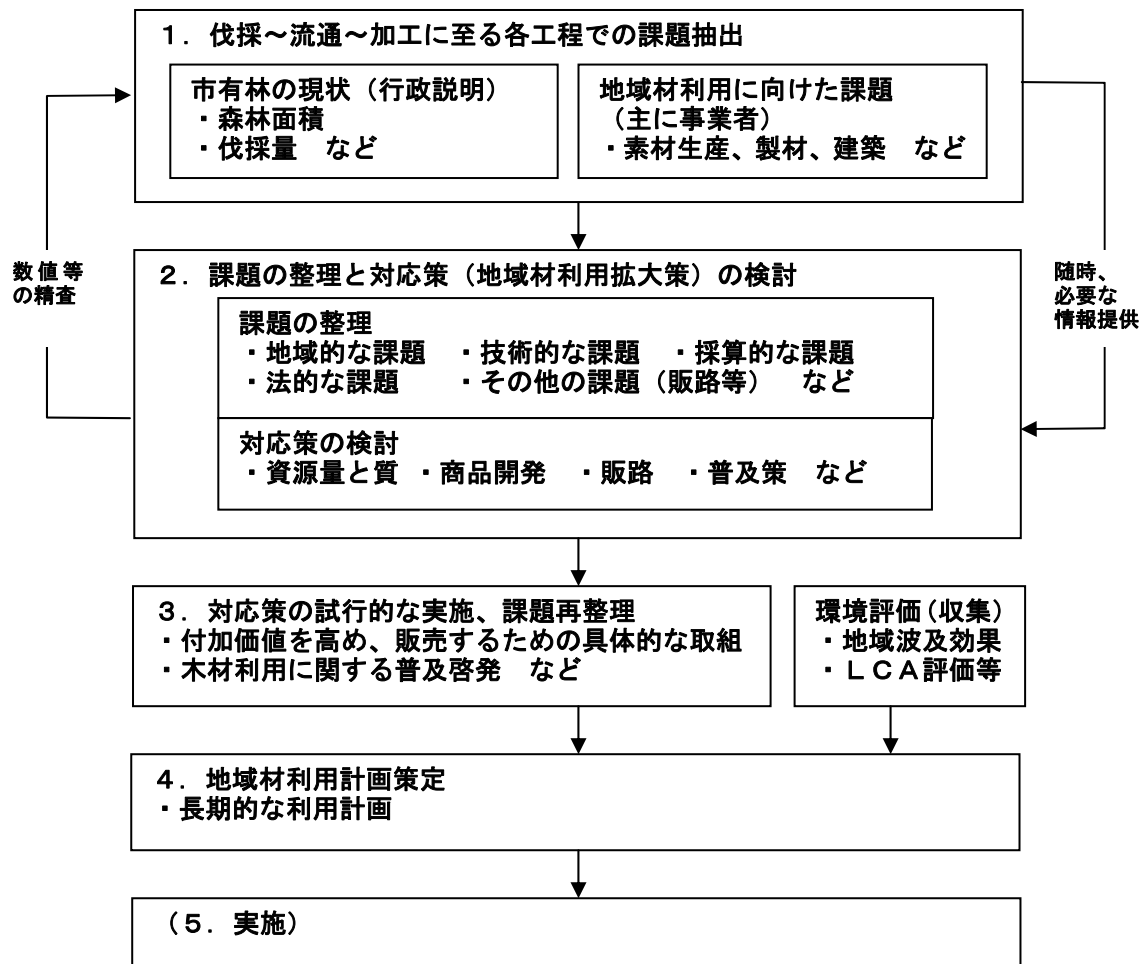
○川上部会

- ・ 木材供給側（川上）での地域特性に応じた森林施業とコスト削減策

○川下部会

- ・ 地域材利用の拡大策（高付加価値製品の加工・流通）

### 5. 取組概要



## 6. 今後のスケジュール

### <第1回：11月25日>

- 会議設立説明 ○座長、副座長の選出 ○構成メンバー紹介
- スケジュール・進め方・資料の説明 ○意見交換など

<次回会議に向けて、課題等の調査を実施することを検討>

### <第2回：1月中～下旬>

- 釧路の森林・林業・木材産業の現状について（各会員より）
- 課題の整理と対応策の検討 ○意見交換など  
（以下、並行して、各部会での議論）

### <第3回：2月下旬>

- 来年度の取組み（案）

### <必要に応じて開催、H23末日途>

- 地域材利用計画策定